

伝統芸能

はな 鼓 つづみ

昨年十一月九日、大坂公 越路大夫師入門。師匠宅 演のさなか、弟弟子の竹本 貴大夫君（金）が自宅で自ら 命を断った。搬送先の病院 で、白布の下にあった顔は 微笑んでいた。常に無表情 だった彼が、笑っていた。 一九七一年夏、彼は竹本

文楽太夫 豊竹英大夫



2002年、竹本越路大夫師の葬儀で、竹本貴大夫君と豊竹英大夫

して通じ合うものがあつた。当時、内弟子修業に音をあげていた私は、勤勉実直な彼の存在なしには、とつくに廃業していただろう。福島県出身の彼は、訛りに

貴さん、聴いてください

ずいぶん苦労して、死の一周間前にも一緒に訛り矯正の朗読をした。稽古熱心で、昼すぎから夕方暗くなるまで、ほぼ同じ姿勢で、録音テープを聴いていた彼の姿が目につく。

数日前、お姉さんから電話をもらった。「弟の見台が家にあつては心が落ち着かない、せひ、使つてやってください」という。もうお盆の時節かと思うと、感無量になった。

彼が唯一、私に自慢したことがある。「三十年ほど前、勉強会で「奥州安達原環の宣明御殿の段・奥」を語った時、師匠に誉められ、「随筆家の岡部伊都子さんも良かったとおっしゃっていたよ」とも言われたのだ。

奇しくもこの九月、東京公演の私の役はそれと同じ目だ。もちろん、彼の見台で語らせていただく。貴さん、聴いてください。